

Real Application Clusters 12c ～研修受講前テスト～**■問題1【RACの構成要素】**

RACを構成するコンポーネントの説明として正しいものを1つ選びなさい。

- データベースは各ノードのローカルディスクに配置する。
- クラスタウェアはOracle インスタンスとは別のノードにインストールする。
- パブリックネットワークの他にプライベートネットワークが必要である。
- 全ノードで1つの共有メモリ領域を使用する。
- 分からない。

■問題2【RAC データベースへの接続】

RAC データベースへの接続について正しいものを1つ選びなさい。

- クライアントはインスタンスの負荷情報を確認して接続する。
- クライアントはクラスタ名を指定して接続する。
- SCAN リスナーが存在する場合、リスナー・プロセスは起動しない。
- SCAN リスナーは各ノードに分散して配置される。
- 分からない。

■問題3【キャッシュフュージョン】

キャッシュフュージョンについて正しいものを1つ選びなさい。

- キャッシュ・フュージョンはRACの機能ではなく、ストレージ側の機能である。
- キャッシュ・フュージョンはデータ・ブロックをノード間で転送する機能である。
- キャッシュ・フュージョンはREDO ログ情報をノード間で転送する機能である。
- キャッシュ・フュージョンの設定は手動で行う。
- 分からない。

■問題4【Oracle Clusterwareの特徴】

Oracle Clusterwareの特徴について正しいものを1つ選びなさい。

- RACにおいては、サードベンダー製クラスタウェアがあればOracle Clusterwareは必須ではない。
- リソース管理は行えるが、フェイルオーバーは行えない。
- 各ノードの稼動状態を監視する。
- RACを構成するノードのいずれかにインストールする。
- 分からない。

■問題5【CRS リソース管理ユーティリティ】

CRS リソースを管理するユーティリティについて正しいものを1つ選びなさい。

- CRSCTL ユーティリティでは Oracle Clusterware スタックの起動・停止が行える。
- SRVCTL ユーティリティでは各インスタンスに接続しているセッションの状態を確認できる。
- SRVCTL ユーティリティでは RAC を構成するノードの起動・停止が行える。
- CRSCTL ユーティリティでは Oracle Clusterware リソースの稼動状態を確認できる。
- 分からない。

■問題6【物理ディスク障害に対するバックアップ・リカバリ】

RAC 環境でのバックアップ・リカバリについて正しいものを1つ選びなさい。

- RAC 環境の場合、バックアップが無い場合でも、メディア障害から復旧が可能である。
- 投票ディスクのバックアップは自動的に取得される。
- OCR は多重化しておけば、バックアップの必要はない。
- RAC 環境ではデータファイルのバックアップは自動的に行われる。
- 分からない。

■問題7【ログ・ファイル】

RAC 環境で出力されるログ・ファイルについて正しいものを1つ選びなさい。

- Oracle Clusterware 全般のエラー情報がサマリログとして出力されるログファイルがある。
- データベースのエラーはクラスタウェア関連のログと一緒にファイルに出力される。
- Oracle Clusterware リソースのエラーの詳細情報はクラスタウェア・トレース・ファイルに出力される。
- OCR のエラーに関するログファイルはデフォルトでは出力されない。
- 分からない。

■問題8【インスタンス障害】

インスタンス障害時の動作について正しいものを1つ選びなさい。

- インスタンス・リカバリではパスト・イメージは使用されない。
- インスタンス・リカバリは、障害が発生していないサーバーで行われる。
- インスタンス障害を検知すると、全ノードのインスタンスが再起動される。
- インスタンスの再起動ができない場合、データベースがクラッシュする。
- 分からない。

■問題9【ノード障害とインターコネクト障害】

ノード障害とインターコネクト障害について正しいものを1つ選びなさい。

- ノード障害にはネットワークの断線が含まれる。
- 投票ディスクを使用してノード障害とインターコネクト障害を切り分ける。
- インターコネクト障害が発生すると、データベースが停止する。
- ノード障害が発生すると、Oracle Clusterwareの再インストールが必要である。
- 分からない。

■問題10【チューニング】

RAC環境におけるチューニングについて正しいものを1つ選びなさい。

- RAC環境ではメモリーチューニングは自動的に実行される。
- RAC環境ではStatspackが使用できない。
- RAC環境では、キャッシュ・フュージョンによるノード間通信がオーバーヘッドとなる。
- RAC環境では待機イベントはそれほど重要ではない。
- 分からない。